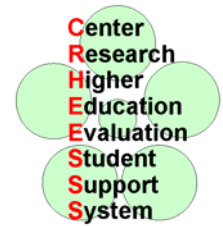


# 週刊センターニュース No.9



第9号(2004年5月10日)毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 共同学習会のご案内

共同学習会は、教職員の間で教育、研究、そしてその支援のあり方等について自由に議論する場です。どなたでも参加できます(可能な限り事前にご連絡ください)。

- 第16回 日時: 5月13日(木)5時限目(16:10~17:40)  
場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室  
講師: 早田幸政 大学教育開発・支援センター教授  
題目: 「大学評価・学位授与機構の「大学機関別認証評価」」  
概要: さる4月13日(火)、東京都千代田区一ツ橋の日本教育会館で、大学評価・学位授与機構主催の「大学機関別認証評価に係るシンポジウム」が開催されました。そこでは、同機構の関係者より、機構の構想する「大学機関別認証評価」のアウトラインについて説明がなされるとともに、その説明を受けてパネリストたちによるパネルディスカッションが行われました。当日の機構関係者の説明をなるべく忠実に再現していく中で、今後の機構が担う大学評価の方向性について共に考えていきたいと思えます。
- 第17回 日時: 5月20日(木)5時限目(16:10~17:40)  
場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室  
講師: 古畑徹 文学部教授  
題目: 「教養教育カリキュラム刷新案(最終報告)の要点と今後の検討課題」
- 第18回 日時: 5月24日(月)5時限目(16:10~17:40)  
場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室  
題目: 「他大学に学ぶ大学改革: 金沢工業大学、福井大学、京都大学」  
司会: 西山宣昭 大学教育開発・支援センター助教授  
概要: NHK Navigation という番組をビデオ録画したものを紹介します。内容は、『就職率99% ~採用される学生をつくれ~』(金沢工業大学)、『研究資金は自らの手で ~国立大学法人化の影響~』(福井大学、京都大学)です。ビデオを見た後、フリーディスカッションを行います。

なお、第18回は臨時共同学習会として5月24日(月)に開催します。

## 大学評価学会設立大会・総会に参加して

2004年3月28日(日)にキャンパスプラザ京都において開催された、大学評価学会設立大会・総会に参加した。設立大会のプログラムは記念講演、3つの報告と討論から構成されていた。益川敏英氏(京都産業大学、京都大学基礎物理学研究所元所長)による記念講演では、「研究は未知のことを調べるのだから計画通りに行かなくても当然である」「基礎研究は100年くらいの長い目でみないと評価できない」「性急な成果を求めると研究体力がなくなってしまう」「大学では基礎をしっかり教えることが重要(即戦力を求めるべきではない)」など、「評価」が導入されることによって基礎研究が危機にさらされることへの懸念が表明された。

基調講演に続く、海部宣男氏（国立天文台）、田中昌人氏（京都大学名誉教授）、篠原三郎氏（日本福祉大学元教授）による報告では、「研究評価に達成度評価はなじまない」「達成度評価は運営面だけにとどめ、研究評価にはピアレビューを中心に行うべきである」「評価は受ける側、行う側双方にとってメリットのあるものでないといけない」「評価は大学へのお金を削減するために行うのではなく、大学をよくするために行うべき」「日本の状況に合った研究評価システムの構築が必要」「科学・学術行政と研究者が乖離しているのが問題」「国連が、高等教育の無償化、若者の発達保証について要求しているのに、日本政府はそれらを無視している」「お金が払えないから退学というシステムは人権侵害である（こういう点を評価システムでカバーできないか）」「日本の国による教育支出は低すぎる」「若者は自分が発達しているという実感が（教育内容を考えないといけない）」などの指摘がなされた。

設立大会で、このように「評価」に対してどちらかというとな否定的な講演、報告がなされており、「評価」は決して歓迎されているものではなさそうであるが、今後、大学評価学会は、その学会活動を通して「評価」に対するこのような否定的考え方を払拭し、「評価」に対する認識を広め、「評価文化」を育成していくことをその第一の役割として認識し、「評価」を単なる「査定」とは異なるものとして位置づけられるように努力していった欲しいというのが、参加後の率直な感想であった。（文責 堀井）

### **金沢杜の里まちづくりの取組～ランチョンセミナーから～**

4月27日、金沢杜の里まちづくり委員会の市村銑治事務局長にお願いして、「金沢杜の里」の街づくりの取組をご紹介いただいた。金沢杜の里の土地区画整理事業は、金沢大学の角間地区への移転を契機に始まり、住民主導で整備計画策定が行われ、住民と行政とのパートナーシップのもと、順次実行に移されてきた。旭町から金沢大学まで、浅野川沿いのバスからの眺めは、金沢中心部とは趣を異にする自然を引き立てた整然とした景観が印象的であったが、住民参加型の街づくりの結果であることを知るとともに、金沢大学もまた杜の里の一員であることを認識した。この土地区画整理事業は、平成16年度をもって一旦終了するが、NPO法人「金沢杜の里街づくりセンター（仮称）」のもと、地域交流活動も含めた新たな街づくりが再開するとのことであった。市村氏は、学生諸君に対しても積極的な参加を呼びかけられた。金沢大学と連携した里山の自然環境保全活動などの実績を踏まえて、新たな本学の地域貢献が求められていると実感した。自分たちが住む町に対する関心は高く、多数の学生諸君が参加し、熱心に市村氏の話聞いていた。（文責 西山）

### **角間ランチョンセミナー開催記録（4月26日～5月7日分）**

2004.4.26 「はもって楽しむ アカペラライブ」 アカペラサークルメロメロ

2004.4.27 「地域に生きる大学生 - 杜の里街づくりについて - 」

市村 銑治氏（金沢杜の里まちづくり委員会事務局長）

2004.4.28 「図書館の上手な利用法」野村 洋子（附属図書館）

2004.4.30 「異文化理解のために - 国際交流月間を前に - 」中山謙二（留学生センター長）

2004.5.6 「ヨーロッパの鼓動：チェコ」ペトラ・ブリアーンコヴァー（日研生）

ハナ・ゾパロヴァー（文学研究科研究生）

2004.5.7 「コートジボワールの文化」アカ・エボケレ（自然科学研究科博士後期課程）

### **センター教員活動記録（4月23日～5月9日分）**

2004.4.23 富山大学水橋高校の大学見学会において金沢大学の教育について解説（担当者 青野）

2004.4.24 第63回公開研究会「筑波大学のFD活動 - 教育計画室による授業参観と授業評価 - 」参加（主催：京都大学高等教育研究開発推進センター）会場：京都大学全学共通教育棟（堀井、公費出張）